

令和4年度（2022年度）

令和4年度温室効果ガス排出状況一覧表

活動の区分		単位	活動量	二酸化炭素 (CO ₂)			メタン (CH ₄)			一酸化二窒素 (N ₂ O)			ハイドロフルオロカーボン (HFC)			排出量 t-CO ₂
				排出係数 kg-CO ₂ /L, m ³ , kWh, t	温暖化 係数	CO ₂ 換算値	排出係数 kg-CH ₄ /t, km	温暖化 係数	CO ₂ 換算値	排出係数 kg-N ₂ O /t, km	温暖化 係数	CO ₂ 換算値	排出係数 kg-HFC /台	温暖化 係数	CO ₂ 換算値	
						kg-CO ₂			kg-CO ₂			kg-CO ₂			kg-CO ₂	
				①	②	③	④=①×②×③	⑤	⑥	⑦=①×⑤×⑥	⑧	⑨	⑩=①×⑧×⑨	⑪	⑫	
燃料の使用	ガソリン	L	315	2.32	1	731	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
	灯油	L	98,882	2.49	1	246,216	—	—	—	—	—	—	—	—	246	
	軽油	L	59,093	2.58	1	152,460	—	—	—	—	—	—	—	—	152	
	都市ガス	m ³	3,181	2.16	1	6,871	—	—	—	—	—	—	—	—	7	
電気の使用	電力	kWh	577,346	0.241	1	139,140	—	—	—	—	—	—	—	—	139	
エネルギー起源二酸化炭素 (CO ₂)				—	—	545,418	—	—	—	—	—	—	—	—	545	
一般廃棄物の焼却	廃プラスチック量 (合成繊維以外)	乾t	13,866	2,765	1	38,339,490	—	—	—	—	—	—	—	—	38,339	
非エネルギー起源二酸化炭素 (CO ₂)				—	—	38,339,490	—	—	—	—	—	—	—	—	38,339	
一般廃棄物の焼却	全量	湿t	75,356	—	—	—	0.00095	25	1,790	0.056700	298	1,273,260	—	—	1,275	
車両の走行	普通・小型乗用車 (ガソリン)	km	4,551	—	—	—	0.000010	25	1	0.000029	298	39	—	—	0.0	
	軽貨物(ガソリン)	km	666	—	—	—	0.000011	25	0	0.000022	298	4	—	—	0.0	
	普通貨物(軽油)	km	71,390	—	—	—	0.000015	25	27	0.000014	298	298	—	—	0.3	
	特種用途車 (軽油)	km	26,424	—	—	—	0.000013	25	9	0.000025	298	197	—	—	0.2	
封入カーエアコンの使用		台	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.01	1,430	157	0.2
メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン				—	—	—	メタン (CH ₄)		1,827	一酸化二窒素 (N ₂ O)		1,273,798	ハイドロフルオロカーボン (HFC)		157	1,276
合 計																40,161

※ 活動量、CO2換算値(kg-CO2)は小数点未満四捨五入。
(参考)他社から供給された電気の使用に伴う排出係数は、令和4年度はアーバンエナジー株式会社「0.241」

令和4年度（2022年度）

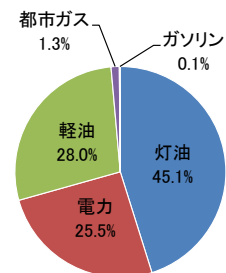
1 エネルギー起源CO₂の排出状況

エネルギー種	排出量 (t-CO ₂)	割合(%)
灯油	246	45.1
電力	139	25.5
軽油	152	28.0
都市ガス	7	1.3
ガソリン	1	0.1
合計（エネルギー起源CO ₂ 排出量）	545	100.0

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合がある。

【中間年度（令和7年度）及び目標年度（令和12年度）目標】

※基準年度（平成26年度）実績：1,040t-CO₂



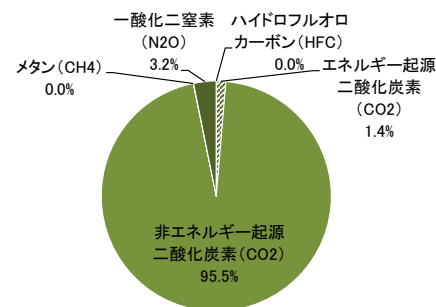
2 対象ガス別の割合

温室効果ガスの種類	要因状況、排出活動等	排出量 (t-CO ₂)	割合(%)
エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)	化石燃料の燃焼 他人から供給された電気の使用	545	1.4
非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)	廃プラスチック類の燃焼	38,339	95.5
メタン (CH ₄)	一般廃棄物の燃焼 車両の走行	2	0.0
一酸化二窒素 (N ₂ O)	一般廃棄物の燃焼 車両の走行	1,274	3.2
ハイドロフルオロカー ボン (HFC)	封入カーエアコンの使用	0.2	0.0
合計（温室効果ガス総排出量）		40,161	100.0

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合がある。

【中間年度（令和7年度）までに基準年度比4%削減】 31,089t-CO₂以下

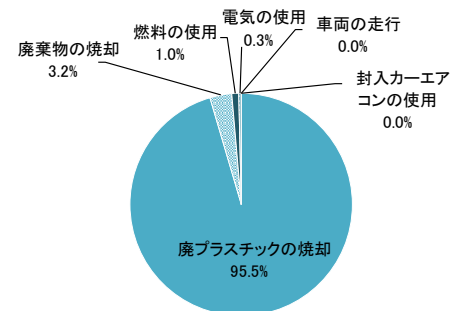
【目標年度（令和12年度）までに基準年度比8%削減】 29,794t-CO₂以下



3 活動別CO₂排出割合

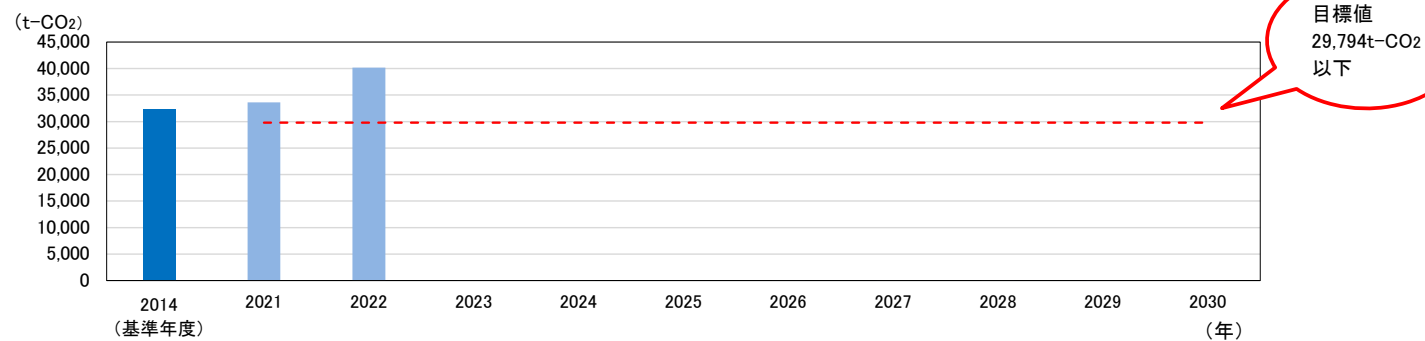
要因状況、排出活動等	排出量 (t-CO ₂)	割合(%)
廃プラスチックの焼却	38,339	95.5
廃棄物の焼却	1,275	3.2
燃料の使用	406	1.0
電気の使用	139	0.3
車両の走行	1	0.0
封入カーエアコンの使用	0.2	0.0
合計	40,161	100.0

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合がある。

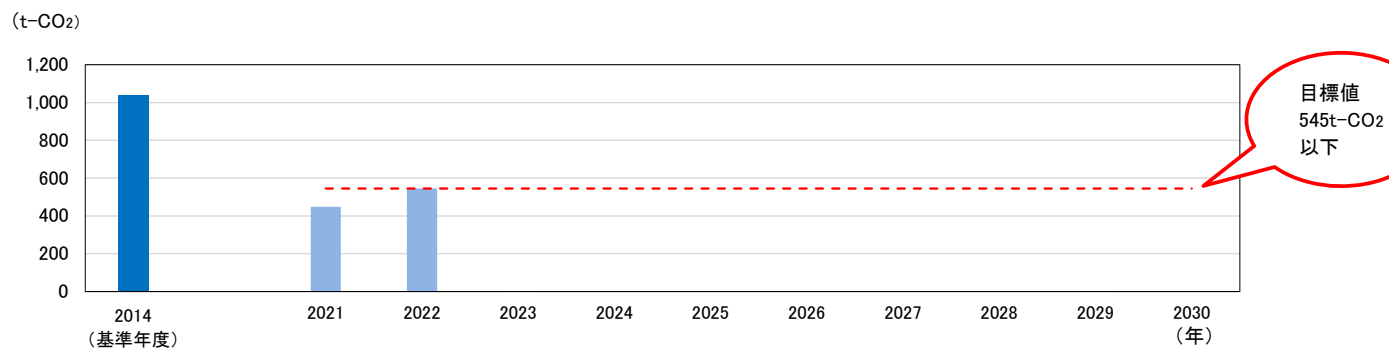


経年グラフ（温室効果ガス総排出量・エネルギー起源二酸化炭素排出量）

t-CO ₂ /年	2014 (基準年度)		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
温室効果ガス総排出量	32,385		33,610	40,161	0	0	0	0	0	0	0	0
目標値に対する実績 (基準年度 ▲8%) 【29,794t-CO ₂ 以下】	100%		104%	124%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

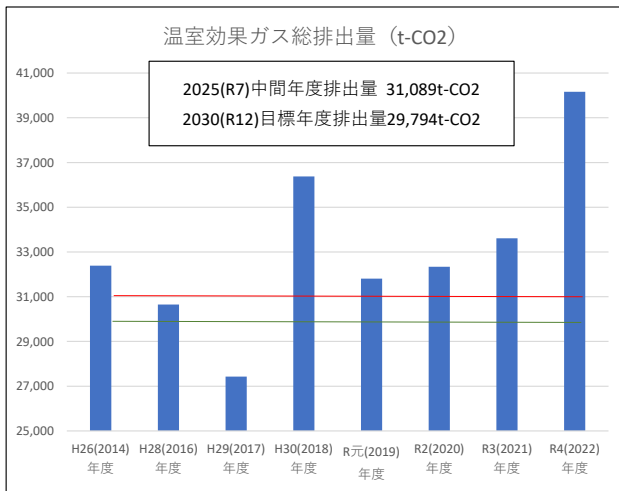


t-CO ₂ /年	2014 (基準年度)		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
エネルギー起源 二酸化炭素排出量	1,040		448	545	0	0	0	0	0	0	0	0
目標値に対する実績 (2019年度排出量以下) 【545t-CO ₂ 以下】	-		82%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%



ふじみ衛生組合の温室効果ガス排出量及び稼働実績

	H26(2014) 年度	H28(2016) 年度	H29(2017) 年度	H30(2018) 年度	R元(2019) 年度	R2(2020) 年度	R3(2021) 年度	R4(2022) 年度
温室効果ガス総排出量 (t-CO2)	32,385	30,653	27,430	36,373	31,811	32,343	33,610	40,161
温室効果ガス総排出量 (t-CO2) ※他自治体の搬入量（焼却量按分）を除いた値	32,385	30,653	26,313	34,798	30,836	32,188	32,096	38,727
エネルギー起源二酸化炭素排出量 (t-CO2)	1,040	830	741	523	545	499	448	545
可燃ごみ搬入量 (t) (他自治体分含む)	69,881	68,756	72,117	73,009	74,256	74,341	77,056	74,777
他自治体からの搬入量(t)	-	-	3,070	3,207	2,314	362	3,519	2,707
可燃ごみ焼却量 (t)	71,693	68,213	70,699	74,461	71,512	72,838	75,848	75,355
燃焼ごみ中の廃プラスチック類の比率(%)	19	19	16	21	19	19	19	23
発電量 (MWh)	37,189	34,967	37,229	40,979	39,296	40,838	42,020	41,344
可燃ごみ焼却量1t当たりの発電量 (kWh/ごみt)	519	513	527	550	550	561	554	549
売電量 (MWh)	26,756	25,483	27,430	30,231	29,075	30,538	31,868	30,790
売電によるCO2削減量 (t-CO2) ※アーバンエネルギー㈱の令和4年度排出係数(0.241t-CO2/MWh)を用いた場合	6,448	6,141	6,611	7,286	7,007	7,360	7,680	7,420

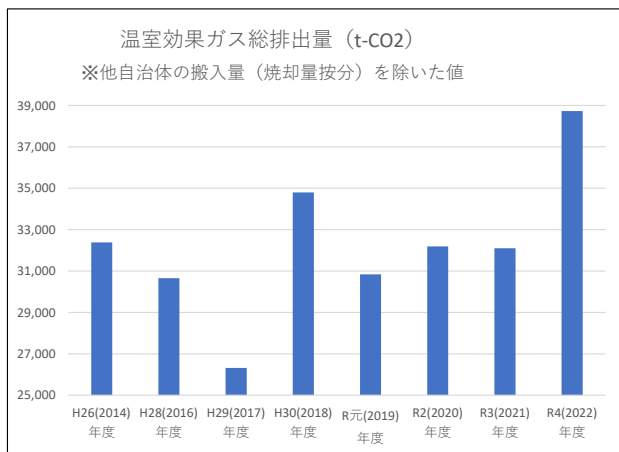


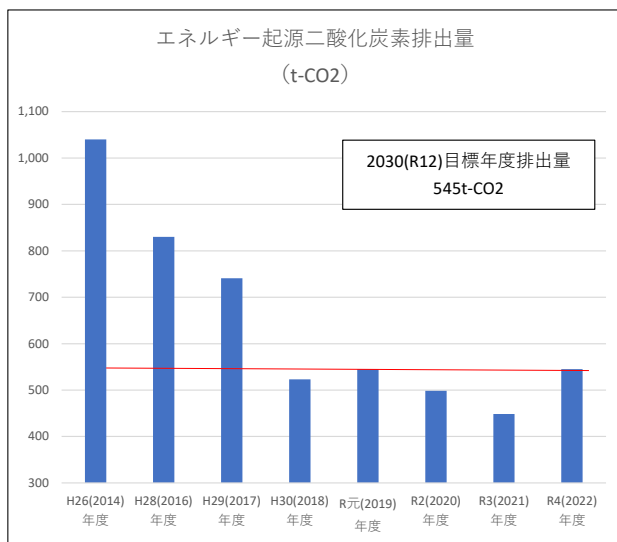
【令和4年度の所見（温室効果ガス総排出量）】

①基準年度（平成26（2014）年度）実績比24%の増となった（参考：令和3年度比19%増）。

②平成26年度、令和3年度は、燃焼ごみ中における廃プラスチック類の比率が19%であったが、令和4年度は23%と2割程度増えたため、温室効果ガス排出量が平成26年度比24%増、令和3年度比19%増となった。

③廃プラスチックの焼却及び一般廃棄物の焼却に伴うCO₂排出割合が99%を占めているため、温室効果ガス総排出量に係る目標達成のためには、ごみの削減、特にプラスチックごみの削減が必要である。





【令和4年度の所見（エネルギー起源CO₂排出量）】

①基準年度（平成26（2014）年度）実績比48%の減、目標値と同じ排出量となった。

②水銀制御システムを平成30年度から本格稼働したことにより、排ガス中に含まれる水銀が規制値を超えた際に行う焼却炉の緊急停止が無くなり、焼却炉の立上げに使用する灯油使用量が大きく減少した（基準年度（平成26年度）比灯油使用量が43%削減）ことが、エネルギー起源CO₂排出量減の要因の一つである。

③計画的な焼却炉の運転を行ったことにより、買電量が削減された（基準年度（平成26年度）比買電量28%削減）こともエネルギー起源CO₂排出量減の要因の一つである。

④電力のCO₂排出係数が0.531kg-CO₂（平成26年度）から0.241kg-CO₂（令和4年度）に下がったこともエネルギー起源CO₂排出量減の要因の一つである。

⑤令和3年度と比較し、令和4年度は炉のメンテナンスや点検を行うための立ち下げ回数が多かったため、炉の立ち上げ時に灯油を多く使用したことから、エネルギー起源二酸化炭素排出量が増加した。（立ち下げ回数：令和3年度、5回。令和4年度7回）